

# ★ 学校向夜崎釜ヶ谷(仮称) 第62号

## 12/17 今晚7時より「喜望の家」一階にて テーマ「労働と医療」

### 我々は何がでさるかが、どう取り組むかー

■いよいよ冬暮もおしまり、特にアブリがちな仲間にとっては、どう年を越していくかと言う、"越冬"が切実な問題となってきました。

■そこで今回の夜間学校は、"越冬"について、特に医療を中心にして話し合います。

■"越冬"の問題はアブリがちな仲間や、病気の仲間にとって特に深刻な問題です。しかし、その事が示している

のは、今は元気で働いている仲間も極めて近い将来には同じような状態になる可能性が極めて大きいと言うことです。

■このことをふまえて、年明けの仕事の見通し、又、昨年の越冬を病気の仲間を中心に振り返りながら、なぜ釜ヶ谷に病気が多いのか、その原因を考えていきたいと思えます。

■そして、現在、越冬実などで準備が

「仮称」釜ヶ谷夜間学校とは...

我々が釜ヶ谷で、あるいは日雇労働者として生活していく中で、誰よりもがいつかは必ずぶつかると、一人の問題であると同時に皆の問題でもある仕事や病気の問題等を皆の力で解決していく

為に、先生と生徒の関係でなく、皆が

生徒で先生でもあると言う対等な関係の中で、互いに知識と経験を通して学び考え合う自由な場です。是非多くの仲間が参加して下さい。又、運営にも積極的に参加して下さい。



進められている越冬斗争にどのように参加していくかについても話し合いたいと思えます。

多くの仲間の参加を呼びかけます。

### 「病気の仲間は今すぐ」

### 「診察・入院を...」

越冬実医療班では、医療センターで診察してもらえらる依頼券を、解放会館2階で発行しています。病気の仲間はあわただしい年末、年始の前に早目に診察を受け、必要な仲間は入院しよう。

12月25日はクリスマスをやります。  
6時南場7時外 300円

# 第61回報告 テーマ: 運営委員会

## テーマをもっと深めよう!!

今までを振り返って...

夜間学校が始まってから一年半、今回で61回目を迎えました。メンバーも定着し、中の広いテーマを設け、話し合いを進めてきました。さて、参加者からの感想、意見は...

「人の意見を否定するのはやりやすい。そこから発展できればいいが、もうひとつ進めないから言いくくなる。」

「外から講師を招いて、話しを聞きたい!」

「あまりにも 教師⇄生徒 という関係を強調しすぎたのではないか。外に向けての働きかけも必要ではないか。」

「教師⇄生徒 の関係の中で、みんなの問題を自分自身のこととして問題化できているのではないか。」

「ここで生きているワシら自身が、どういう風に生きていくのか、という姿勢を

もった上で、外から誰かを呼んで話しを聞くのならないと思う。」

「ワシらの意識の中には、夜間学校を展させようと思うものはない。」

「自分は、一介の労働者にすぎない、という思いがいつも帰ってくる。活動家にはなれない。」

「夜間学校では、労働者と活動家の間にある一つの垣根をとっばらいたい。」

「今までそういうことは言わなかった。」

「あんたら何やってくれるんや? ではなく、お互いにつくり出している、ということは常に口にしてきた。」

「ワシは、夜間学校は、意識を育てる場だと思っている。ここでの話し合いを自分の知恵にして、それを行動に結びつけるようなトレーニングを行なう場だ。」

「夜間学校の運営母体を明らかにしてほしい。」

## 今後のすすめ

総括から、準備不足もあり討論が深化しない、もっとテーマを掘りおこしていきたい、という意見が出されました。

「3ヶ月ごとにくぎり、大きいテーマを設け、その一回ごとの細かいテーマをつくっていったらどうか。」

「原案は、地域研(運営委員会)がつくり、それを夜間学校運営委員会で検討すればよい。」

自己紹介を含めて、みんなの納得のうち、今後すすめていこうということになりました。より多くの仲間の参加を!

西成区萩の茶屋2の8の18・喜望の家内  
電話 (06) 64713946  
毎週木曜日夜7時から9時まで